
ユニセフの開発のための コミュニケーション (C4D) プログラムは、 以下の実現を 目的としています。

- 質の高いインクルーシブな（誰もが受け入れられる）サービスの需要と利用の増加
- 家族やコミュニティに不可欠な慣行の導入推進
- 有害な社会規範や言動の低減
- 特に最も弱い立場に置かれた青少年、子ども、地域社会への働きかけとエンパワメント

2018 年の C4D の主な成果として、世界各地のユニセフのプログラムにおける C4D の質の強化と、現場でのプログラム成果の向上が挙げられます。

2018 年、C4D の分野横断的な支出：
5,880 万米ドル
特定の分野に関連する C4D 支出：
3 億 6,880 万ドル

右：メディアとジャーナリズムの研修を受けるコートジボワールの若き記者。コミュニティのラジオ局で、子どもの権利やユニセフのソーシャルメッセージングツールである U-Report の投票結果などのトピックを扱えるよう、スキルを学んでいます。

© UNICEF/UN0253901/Dejongh





開発のための コミュニケーション

広報・啓発活動と市民の参加は、子どもたちの生活と未来を危険に晒す可能性のある行動、伝統、社会規範を変える上で重要な役割を果たします。すべての子どもが命を守られ、健全に成長するためには、開発のためのコミュニケーション（Communication for Development : C4D）は不可欠なツールとなります。

世界中でたくさん子どもや若者たちが社会的・文化的障壁に直面しており、その影響は生活や健康、教育や安全にまで及んでいます。人生の機会を制限され、その可能性を閉ざされているのです。文化的規範は、ジェンダー、人種、障がい、民族性に関するステレオタイプを正当化し、差別や不利、社会的排除につながる可能性をはらみます。こうした規範が、少年少女たちを教育から遠ざけ、子どもにとって最適な栄養の摂取を妨げるほか、子どもの虐待とネグレクト（保護の怠慢ないし拒否）を常態化させ、地域社会が必要なサービスにアクセスするのを妨げています。

ユニセフが実施するC4Dプログラムは、このような障壁に立ち向かう助けとなります。

指標と成果

2018年の最も重要な進展の一つは、世界中のC4Dプログラムの効果測定できる組織全体としての指標を導入したことでした。この指標によって、地域社会への働きかけと行動変容に対するC4Dプログラムの品質、規模、持続可能性を測ります。

この分野における2018年のC4Dの成果には、以下の取り組みが含まれます。

- シエラレオネでは、国の異宗教間会議および対話型ラジオ番組の使用を通じて、50万人以上の保護者に呼びかけを実施。これにより、妊産婦の出産前ケア訪問に関する知識が18%増加し、手洗いの知識は12%増加。
- バングラデシュで約1,000人のコミュニティボランティアを動員し、ロヒンギャ難民危機の影響を受けた地域社会の能力を強化する活動を展開。
- オンラインおよび対面での参加を組み合わせることで、偏見を減らすとともに、HIV検査・治療サービスを促進し、ウクライナの若者のHIV検査が44%増加。
- パキスタンで“父から父”への支援グループをサポートし、これにより完全母乳育児率が47%から62%に向上。

C4Dは2018年、バングラデシュ、コンゴ民主共和国、マダガスカル、イエメンを含む90カ国で、ユニセフの緊急支援において中心的な役割を果たしました。

コンゴ民主共和国では、C4Dの取り組みがエボラ出血熱とポリオの2つの集団発生へ対処するのに役立ちました。2万5,000人以上の地元のリーダー、前線で活動する1万5,000人の保健員、113のラジオ局で9万回にわたる放送が、エボラ出血熱の予防と治療の方法について1,200万人への情報提供と啓発活動への参加を促しました。その後行われた知識、態度、行動に関する調査では、エボラ出血熱に関する知識が23%から91%に増加したことが明らかになりました。

リーダーシップとアドボカシー（政策提言）

上述の例は、2018年のユニセフのC4Dでの取り組みのほんの一部にすぎません。ユニセフは、独自のソーシャルメッセージングツールであるU-Reportのほかソーシャルメディアなどのコミュニケーションプラットフォームの利用機会を増やし、2019年の取り組みに人間中心設計（使う人を中心に据えたモノ作りを体系化したもの）、行動経済学、行動インサイト（行動科学の知見）をさらに組み込むことを計画しています。

さらに、子育てと社会的規範に特に重点を置き、分野横断的なライフサイクル(子どもの成長段階に合わせて行う)プログラムを通じて地域社会への働きかけを強化していきます。組織のリーダーシップとC4Dの重要性に関するアドボカシー（政策提言）もさらに推進していきます。



コンゴ民主共和国のベニの学校に通うカンバレ君（7歳）は、エボラ出血熱の予防について学んでいます。C4Dは、2018年のコンゴ民主共和国でのエボラ出血熱集団発生への対処において重要な役割を果たしました。この取り組みに関わったことでエボラ出血熱の予防に関する知識を得ることができた人々は1,200万人に上りました。

©UNICEF/UN0235943/Nybo